

## 第3回 四万十市文化複合施設整備検討委員会協議内容及び結果

【日 時】 平成30年11月26日（月）19:00～21:20

【場 所】 四万十市役所本庁3階 会議室

【出席者】（委 員）14名（事務局）6名

### 【議 事】

- 1 前回議事録の確認
- 2 第3回市民ワークショップの報告
- 3 基本計画（素案）について

### 【協議内容及び結果（要旨）】

- 1 前回議事録の確認  
事務局より、第2回検討委員会で協議した内容について概要説明。
- 2 第3回市民ワークショップの報告  
事務局より、「第3回ワークショップかわら版」にて報告。  
前回に引き続いて高校生の参加があった。ホール機能の充実を求める意見はもちろん、交流機能（カフェ等）の充実を求める意見も多かった。
- 3 基本計画（素案）について
  - (1) 基本計画全体構成の確認（目次）  
事務局からの説明により全体構成を確認。
  - (2) 基本計画の第3、5章（修正部分案）の確認  
事務局より、前回出された意見を踏まえ修正した箇所について説明。  
主な修正箇所は、「第3章 事業の考え方」において、事業の企画・展開にあたっては、6つの柱をもとに、開館から中長期の時間軸の中で、戦略をもって事業運営の熟度を高めながら段階的に実施していくこと、詳細は次年度以降の管理運営計画にて検討すること、について追記。  
また、「第5章 管理運営の考え方」については、「(1) 収入」、「(3) 収支の考え方」を追記。

### 【協議結果】

第3章の生涯学習事業について、「中央公民館で行われてきた活動を引き継ぎ」と

ある部分について、中央公民館だけでなく既存の施設で行われてきた活動を引き継ぐという表現に修正する。その他は事務局案のとおり。

(3) 基本計画の第4章(案)について

事務局より「施設計画(案)」について説明。

主な内容としては、①施設の延床面積は6,200㎡程度(JA入居部分を含めると6,550㎡程度)としたいこと、②施設を構成する各諸室について、③大ホールは市内中学校総見や近隣施設での興行の集客状況を考慮し850席(1階600席、2階250席)としたいこと、小ホールは全体を有効に利用出来るよう平土間とし、スタッピングチェア方式としたいこと、について説明。

[協議結果]

大ホール、小ホール、リハーサル室(兼練習室)、スタジオ、練習室(兼会議室)、和室、講師控室、創作室、調理実習室、給湯室、トイレ、展示室(兼会議室)、エントランスロビー、交流ラウンジ、キッズコーナー、事務室受付カウンター、守衛室、控室、倉庫、機械室を設ける。

大ホールについて、850席か1000席かというところで意見が分かれたが、事務局案の850席でパブリックコメントを出して見て、その結果に対してどういう議論が出来るか確認する。

その他は、事務局案のとおり。

(4) 基本計画の第6章～第8章(案)の確認

事務局より、「第6章 整備手法」、「第7章 概算事業費」、「第8章 整備スケジュール」について、説明。

[協議結果]

第6章 整備手法・・・従来方式、DBO方式、DB方式のいずれかで進めることとする。

第7章 概算事業費・・・全国の類似施設の平均的な建設費単価が75万円/㎡程度であり、概算建設費を約49億円と想定する。

第8章 整備スケジュール・・・33年度から本体工事、35年度開館を目指す。

【意見等(大ホールに関するものについて抜粋)】

- (1) 多目的に企画するには、大は小を兼ねるので、座席1000席は必要。
- (2) 年間に1～2回しか1,000人を超えることはない。850席程度でよいと考える。
- (3) 850席規模となると、宿毛市も土佐清水市も同じ規模である。つまり、ステージとしては全く魅力がない。幡多郡で一番大きなものを作ったほうがよいと思う。
- (4) 市民の利用よりは、将来の大きなイベントが出来る可能性を優先したい。中村にこないのは座席数が関係していると思う。今は、土佐清水や宿毛へ中村の人が行っているが、将来は逆に来てもらう。

- (5) 公費がかかるということが気になる。現在の文化センターや近隣でやっているショーを見るとまず満席になることはない。見合ったものをつくるべきだと考える。850席くらいが運営的にもよいのではないかと考える。
- (6) 今の文化センターでも、大きな芸能団体からの問い合わせでまず聞かれるのは、人数は何人入るか、ということである。アーティストを呼ぶということが今後多くなっていくのであれば、客席規模は気にすべきだと考える。
- (7) 観客を呼び込むためにはどうしたらよいかも並行して考えていかなければいけない。器だけの話をするのは違和感がある。
- (8) ホールの客席数で言えば、興業がメインなのか、市民の利用にどれだけ重きをおくかによって違うのではないかと考える。もしも1,000席にした場合は、他の部屋はどうなるか気になる。
- （事務局回答）機能諸室という意味では、数や広さに影響はない。ただ、交流機能のエントラスロビーが細くなる。
- (10) 現実問題としては、850席程度がよいと思う。
- (11) 重要なのは自分達として「どこに意思を置くか」である。
- (12) 自分達が公演をするには大きすぎるが、有名人を呼ぶには小さすぎる、という議論をしている。プロを呼ぼうと思ったら700席ではできない。自分たちがやるためと、プロを呼んで聴くためでは、求めるものが違うことを理解してほしい。
- (13) 850席で、十分に今出来ている催物は出来るし、コンパクトでよいと思う。しかし、これからどうしたいかと言えば、各団体の活動だけで話が終わるのはもったいない。仮に幡多地域に1,000人規模の施設があったときに、外部のプロモーターが使いたいかどうか。
- (14) 小さな部屋を1つでも2つでも多くつくってほしい。複合施設なのだから、生涯学習機能も大切に、中央公民館や働く婦人の家の機能が後退しないように考えてもらいたい。
- (15) 基本理念は「参加・交流・創造の拠点」である。飛びぬけている必要、例えば幡多一番のホールをつくる必要はないと考える。丸亀市のホールの方は1,000席規模のホールでは興行がありません、と言われた。
- (16) 西土佐ふれあいホールについても人を集めるのに苦労している。中央公民館や働く婦人の家の機能を活かして、何より子供が来やすい、高校生や中学生が自由に入ってこられる部分に重きを置いた施設で、楽しい空間になるとよい。850席の規模で十分ではないかと思う。